ひろし新聞 139号

発行者：県議会議員 中川 浩（危機管理・大規模災害対策特別委員）

『災害』編

（ヘリのロープで降下し）腰まで雪に埋まりながら、
救助に向かう埼玉県警隊員

次は、首都圏大災害かも知れない！

埼玉県内で、この7ヶ月に3度の災害が起きています。

竜巻被害：昨年9月2日越谷など。同16日熊谷。
大雪被害：2月14日秩父をはじめ狭山でも

現場ドキュメント 大雪！ 秩父は実際どうだったのか？

総力特集！

大雪時の対応が実際、現場でどうだったか検証　今回の検証の主旨は、雪災害だけでなく、県内どこでも起こり得る災害で、今後、県・市町村の災害対策に活かす為と、私たち市民が災害にどう備えればいいか考える為に行いました。

命がけの除雪作業現場 最前線へ行って来ました（秩父市・大滝）

除雪の最前線。ここから先には進めない（私が行った2月22日）

災害の備えにあなたの力を!

災害は形を変えて、今後も頻発する事が想定されます（ゲリラ豪雨・竜巻・大雪・噴火・台風・地震など）。

災害では必ず課題が出ます。今回の大雪で問われた最大のテーマは、「これで精一杯」と決めつけずに、“総力”を日頃からパワーUP出来るかです。行政職員の防災力を高める事は大前提ですが、誰かのせいにだけしていては、総力とは言えません。

津波被害にあった震災の被災地では、“てんでんこ”の言葉に代表されるように、自分達の命は、自分達で守る事を徹底しています。

次は、私たちが災害に巻き込まれる番かも知れません。

首都圏での大震災で、埼玉県内だけで死者数予測は3599人（想像してみて下さい）。都内などに通勤・通学している人の死者・負傷者数は、それ以上に尋常ではないでしょう。大災害時、病院では重傷者の治療が優先されるので、軽症の治療は出来ないと思っておいたほうがよく、ケガの止血や、骨折の一時的な対処（普通救命講習）は出来るようになっておいたほうがいいと思います。

自分の家は大丈夫というだけではなく、自治会ごとや、会社での自主防災組織をはじめ、地域で防災に取り組む必要があると思います。災害時に困らない地域に皆さんの力で、していきましょう!（災害ボランティアに今後参加してみようという方はご連絡下さい）

どうか、ご家族・職場・友人・地域の方とお考え頂ければと思います。

ご自分の命と、あなたの大切な人の命を失っていない、今。

TV埼玉に出演

4月13日（日）午前10時から放送『県議会広報テレビ』。3チャンネルです。ご覧下さい。

中川ひろしホームページ http://hiroshinakagawa.jp/
↑ひろしの毎日の活動・発言を公開中。写真を多数使用し、分かりやすく説明。
この新聞より詳しい事は、私のHPに書かせて頂いております（今後も随時）。

HPが新しくなりました!

ご意見・ご相談などは↓こちらへ　県議会議員 **中川ひろし**
県議会 民主党・無所属の会
電話 090-3310-9234　FAX 2958-8643
〒350-1306 狭山市富士見1-3-6クレアメゾン601 kids-dream@docomo.ne.jp hnkgw@nifty.com

私が19年前、市議会議員に立候補したきっかけは、阪神淡路大震災の半月間の被災地ボランティア経験です。そこで私は、被災者である市民と市役所職員が対立している現場を目の当たりにしました。その後、中越地震・東海豪雨・中越沖地震・東日本大震災など、数々の現場に足を踏み入れ、経験を積み重ねて来ました。

（たとえ小さな規模の災害でも）災害の時の行政の対応がどうだったかは、長く市民の間で語られます。

今回の２月14日の大雪で、**「秩父市からの自衛隊派遣要請を、埼玉県が断った」「未だに“孤立集落”が」**との報道が一部ありました。皆様の中にもその報道をご覧になり、そうなのかと思った方もいらっしゃると思います。

そこでまず私は２月18日、知事と県危機管理防災部長に直接、大雪の救助・復旧対応がどうだったのか話を聞き、復旧・被害対策について要望活動を行いました。

また、秩父で孤立した市民は実際どう思ったのかを直接伺う為、まだ孤立集落があった２月22日、大雪の為、立ち入り禁止区域としている所も許可をもらい、秩父市大滝地区の地元の方と５つの集落の家々を回り、14人の住民の方や、秩父の議員３人に、お話を聞きました。３月17日には、県の秩父県土事務所、秩父市役所危機管理課、秩父市役所大滝支所にそれぞれ行き、大雪当時からの状況などを聞いて来た他、自衛隊にも聞きました。

県では現在、今回の大雪時の対応の検証を進めていますが、まだ大雪の記憶が覚めやらぬこの段階（原稿は３月28日現在）で、皆さんにお伝えします。今回この皆さんへのお知らせは、これまで報じられていた事と違う事や、報じられていなかった事をお知らせする事になると思います。

検証１　大雪から数日後「未だに“孤立”した集落が」の報道

一部マスコミでは、大雪から何日か経っても「まだ“孤立”している集落がある」と報道されていましたが、この報道だけでは説明が不十分です。

実は、県防災センターとしては、孤立集落を大雪後、一刻も早く解消すべく、**孤立している集落の方全員を、市街地にヘリで移送し、除雪が終わるまで安全な場所に避難して頂く事を住民の皆さんに提案・相談しましたが、住民の方々の判断は、集落を離れたくないとの事**でした。結果、病人の方のみヘリで移送する事となり、もし全員を集落から移送していれば、“孤立集落”は、はるかに早く解消しました。しかし、そこには住民の生活がありました。

県防災ヘリと、救援物資を積み込む県警隊員

県防災ヘリ隊員は救援物資を集落に投下する際メッセージを書いた

そこで、県としては、市と協力して、孤立している地域１件1件全ての家を電話などで安否確認を行い、連絡が全て取れ、食料・燃料など物資をヘリで空輸。危機的な状況は、早々に抜け出していました。

私は、最後まで“孤立”していたと報じられた秩父市中津川地区へ行きましたが、中津川地区は西武秩父駅から、車で、普通の路面状況でも１時間10分かかります。秩父の道は奥が深いと痛感しました。

（地図で、秩父大滝の中津川地区を見て、西武秩父までたどってみて下さい。距離感が分かります）

中津川地区は、昭和60年頃にも雪が80、90cm積もり、また、これまでも台風での落石で、数日間の閉じ込め“孤立”は何回もあり、常に灯油を１ヶ月分備蓄していると現地で伺いました。「孤立集落は、せっぱ詰まったという感じではなかった。孤立が３、４日間だったら誰も避難しなかった」と秩父市役所の出張所職員も言っていました。

検証２　伝えられていない事実①「あの大雪の夜、奥秩父の峠に観光バスなどが」

奥秩父の峠で観光バスが立ち往生、遭難（翌朝救助）

立ち往生した車が、雪崩で雪に埋まる

この写真を見て、皆さんはどうお感じでしょうか？大雪の２月14日。狭山でも車の使用を多くの方が控えていた夜、中央高速は大雪のため閉鎖。そんな中を秩父で一番山深い峠を14台もの車（避難しようとした車を除く）が越えようとしていたとは、私には信じられません。遭難すれば当然それは救助が必要になります。

東日本大震災の津波では、渋滞しても車に乗ったままだった多くの方が亡くなりました。車は万能ではありません。

私たち市民１人１人が危機意識を持つ事の重要性を改めて感じました。

検証３　伝えられていない事実②「現場の市役所の対応はどうだったか」

秩父市役所の防災担当者に話を聞き、驚くべき事が分かりました。（以下）

秩父市役所の職員数は580人、内8、9割が秩父地域の在住。電車通勤者は、ほとんどいないそうです。

「大雪の２月14日（金）、午後から大雪警報が発令されていましたが、

「降雪は少ない」と判断し、夜、秩父市役所にいた職員は２人でした。

雪崩という概念も当初ありませんでした。

雪に埋まる秩父のパトカー（写真は2月9日。14日の大雪はこれ以上に）

夜12時になって、職員に召集がかかりましたが、既にその時間では、大雪で車を出せない家が多く、徒歩で行くのも難しく、動ける車で職員宅を回って数人をピックアップ。夜中２時以降に徐々に集まり、その後結果として集まったのは市長など職員36人。

私は、この初動の遅れが、市として市内の状況把握が遅れ、市民が困惑した原因だと思いました。

「翌15日、日中は職員68人に。15日の段階で孤立集落という認識を市は持ち合わせておらず、16日（日）午前まで市は孤立集落を把握出来ていませんでした。

秩父地域では道路の除雪が間に合わず、市役所には、大雪に関する電話が殺到。緊急の電話と、除雪をお願いしたい市民の要望の電話が錯綜し、市役所の災害対策本部は市内の状況がつかめないほど大混乱に陥りました。

一方、**ＴＶでは、自衛隊が山梨県に派遣された映像が報じられ、市民から『山梨には自衛隊が来ているのに、秩父はなぜ来ないのか』との市役所への苦情が相次ぎ、更に収拾が付かなくなりました**」。

除雪作業は、県の秩父県土整備事務所が統括していますが、病院周辺などの除雪依頼は秩父市からはありませんでした。

県土整備事務所にショベルカーは１台もありませんが、秩父地域の建設業者33社の携帯電話を全て知っており、ムリを承知で除雪を頼みました。

１日20時間除雪活動をやっていた建設業者もありましたが、朝日新聞（3月16日朝刊）に、建設協会秩父支部長の苦渋のコメントが載っていました。「除雪は使命感が無いと出来ない。ペイしない。除雪していると『やり方が悪い（道路を除雪すると歩道側に雪がたまる。なぜうちの前はやらないのかなど）』と作業している人が苦情を言われ、少しでも休んでいるとお小言を言われ、やめたいと思ってしまう」。県は建設業者に何とかお願いする立場でした。建設業協会もショベルカーなど重機をレンタルしており、重機は不足しています。

検証４　「秩父市からの自衛隊派遣要請を、埼玉県が断った」との報道

この事が、皆さんが一番気になる事だと思いますが、前提となる情報を先に書かせて頂きました。

①埼玉県庁の防災センターには、自衛隊OBが県職員として常駐しています

報道で伝えられていないのは、県庁の災害対策本部には、自衛隊ＯＢが職員として常駐しており、災害が起きた場合、自衛隊と県がどう連携するか、普段から想定・打ち合わせをしています。

防衛省で事態対処課長などと意見交換（2011年9月）

県議に当選させて頂いてから、自衛隊との災害時の対応について、防衛省の大臣政務官や大臣官房参事官、防衛政策課長と話し、東日本大震災前に、自衛隊が宮城県沖地震を想定した事前計画・現地訓練『みちのくアラート』を行った事が、震災時どう役立ったのか。埼玉県内で災害が起きる事を想定した備えについて話し、県に伝えています。

今回の大雪でも、大雪が降り始めた段階から、県は自衛隊ＯＢの職員を通し、自衛隊と頻繁に連絡を取り合い、自衛隊の担当者が県庁に来て、綿密に打ち合わせをしていました。

（県のヘリでの空撮）立ち往生し、雪に埋もれた観光バスや、手を上げている人が見える（国道140号　秩父市大滝）。

県の防災センターでは、大雪の時、県防災ヘリ・県警ヘリと直接交信し、上空からの映像をリアルタイムに受信し、広域の積雪の状況を把握していた他、県の秩父県土整備事務所なども情報を収集しており、現場の声を県庁に伝えていました。秩父県土整備事務所では、状況把握の為、職員が市内を８時間かけて徒歩で確認したりもしていました。

雪は14日の日中から降り始め、大雪となりました。秩父では県土整備事務所を通じ、建設業者の除雪作業は、14日午前10時から開始。

15～16日に秩父地域の６箇所58人が道路上に立ち往生、建物内への閉じ込め、雪崩による生命の危険に瀕している状況にある事が分かり、15日早朝から県で救助活動を開始しました。これらの６箇所は、秩父県土整備事務所が直接把握した５箇所と、秩父消防本部が把握した１箇所で、県へ連絡がありました。

気流の関係などで降下出来ない時は、物資を投下する県防災ヘリ。

救助要請はいっぺんに大量にあった訳ではなかったので、救助活動は、県防災ヘリ1機（他２機は整備中でした）・県警ヘリ２機（その後整備中の１機も投入。３機に）の体制で順次行い、気流の関係で救出が出来ない場合には、ヘリにより食料や水・毛布・衛星携帯電話などの救援物資の投下を行って、励ましていました。

15日は雨で半日ヘリは飛べませんでした（県警ヘリは入間基地にあり、県防災ヘリは川島町にあります）。霧が出て救助出来なかった時間帯もあり、秩父のヘリポートがあった所にも、雪が積もっていてヘリが下りられず、臨時にヘリポートを隊員が手作業で雪かきして設置し、下りました。17日午後２時53分、58人全員の救助が終了しました。

『自衛隊災害派遣の基準』とは

自衛隊の災害派遣は、歴史的背景から、３つの要件がそろっていなければ、たとえいくら市・県が派遣要請しても、最終的には自衛隊が判断するので、派遣されません。３つの要件の中でクリアしなければならない最大の基準は、①“非代替性”(他に手が無いかどうか)で、他に②緊急性③公共の秩序維持の為の人命保護があります（自衛隊法施行令106条）。

今回の大雪による車の立ち往生は、山梨県では約1000台、長野県で約300台と、埼玉県（24台）に比べてケタ違いに多い状況であると共に、山梨・群馬県とも防災ヘリ・県警ヘリはそれぞれ１機ずつしか保有していません。

自衛隊派遣ですから「状況が分からないけど出て欲しい」では、要請になりません。今回の大雪で、自衛隊は、現地の秩父市役所から救助者の情報が寄せられて派遣出来るタイミングを待っていましたが、肝心な秩父市役所は、“検証３”に記したような状況で、要救助者がいるかなど、市内の状況把握が出来ていない中で、15日午後５時20分頃、秩父市長から知事へ１度「幹線道路の国道140号が通行できず、物資輸送が出来ないので、除雪に自衛隊派遣を要請して欲しい」と電話がありました。これを受け、県は自衛隊に派遣を打診しましたが「人命救助の為、救助に向かう経路を除雪する事はあるが、“除雪目的”では派遣出来ない。手助けしたいが、広域に渡る除雪は自衛隊にも資機材が無く、対応できない」との回答でした。［調べたところ、関東の自衛隊（陸上自衛隊第32普通科連隊）は、防衛装備品として認められていない為、除雪機を持っていません（カンジキも無し）。重機は中型のホイールローダーが１台あるだけです。首都圏でこのような大雪は今まで無く、首都圏での大雪で、自衛隊派遣はこれまでありませんでした。重機を自衛隊のヘリで輸送する事も今回模索しました］

除雪を自衛隊が行った場合、民間（建設業）の仕事を奪ってしまう懸念もありました。

翌16日朝、県は自衛隊からの回答を、市に説明すると共に「県防災航空隊や県警の能力を超えるような、人命に関わる緊急事案が、ある程度特定できれば、すぐに派遣要請しますのでご連絡下さい」と伝えました。したがって、県が断ったという事ではありませんでした。その後、**秩父市長から「『断られた』という言葉を用いたのは、適切な表現に欠けたかも知れません。**お詫びをしたい」とコメントがありました。

秩父市は16日午後2時半に、防災無線で「現在、除雪作業を進めておりますが、記録的な大雪の為、作業がはかどっていません。自宅周辺の除雪にご協力をお願いします。市では昨日から自衛隊派遣を埼玉県に要請しております」と放送した為、今度は市民から市役所に「自衛隊はいつ来るんだ？」との問い合わせが殺到した」との事。

（この放送により、市民の県に対する不満が高まった部分があると思います）。災害対策本部の電話の応対が、災害が起きる度に課題だと言われて来ましたが、今回も課題になりました。

私は秩父市職員に、更なる事態悪化を招く恐れを感じた事は何か？と質問したところ、「通信が途絶えていたら、大変な事になっていた」との事でした。

隊員が雪かきした臨時ヘリポートに下りた県防災ヘリ

今回の積雪は、秩父・三峰で１m50cmありました。雪が山から崩れれば、それ以上の高さになります。

現地で伺った話で、驚いたのは、「大雪の夜、地元の建設業者さんが除雪を行っていて、道を雪に閉ざされ、２日間孤立。ガソリンは持ったが、何も食わず何とか過ごした」との事でした。

私は雪で完全に埋まったトンネルや、除雪現場の最前線まで行きましたが、そこで思った事は、道のすぐ脇が山の斜面なので、いつ山から雪が崩れて来ても不思議ではなく、雪崩の心配を感じました。除雪は命がけです。

除雪し、安定した所でないとヘリは下りられないので、つり上げ救助

秩父大滝での除雪作業

大滑トンネル出口。雪崩の除去（2月22日 本人撮影）

自衛隊派遣に向けた動き

秩父市役所が持っているショベルカーは、１台でした。

孤立集落解消に向けては、14日午前10時から秩父県土整備事務所を通じ、地元の建設業者33社の協力を得て開始。除雪重機66台で進めていましたが、雪の量が多く、完了まで長期間かかる事が判明。

17日午前９時、孤立集落への物資輸送や救命救助などの事態を想定し、自衛隊から県危機管理防災センターに連絡要員が派遣され、県・県警・自衛隊による総合的なオペレーションの体制を組んでいました。

秩父県土整備事務所には、現場職員が除雪作業などに専念できるよう、情報収集及び県庁との連絡要員として、県庁の職員を同17日から派遣。県から市町村に調査を依頼した結果、17日午後４時時点で、孤立が長期化し、断水・停電・食糧不足など緊急を要する、支援が必要な６地区約180世帯がある事が判明しました。

この時点で輸送量が、県の能力を超える恐れが出た為、17日午後６時半、陸上自衛隊第１師団長あてに、埼玉県として新たに「孤立集落を助けて欲しい」との『災害派遣要請』を出し、「人命救助が目的ならば物資を届ける」という形で、自衛隊の災害派遣要請が認められました。

更に18日からは、現場対応に追われる市町村から正確な情報を収集する為、秩父地域振興センターから、県職員を秩父地域６市町村に、情報連絡員として派遣しました。

自衛隊は県の要請を受け18日から、多い時には一日に113人で、県防災航空隊や県警と合同で、臨時ヘリポートの設営、孤立集落の住人の安否確認を行った他、医薬品や食糧・灯油などを中継地までヘリコプターや車両で輸送・配布。病人の搬送などの支援活動を展開。水道の取水がつまった集落もあり（地域独自に水道設備がある）、車を降りて普段でも徒歩30分かかる所を、自衛隊がヘリで取水口のつまりを解消しました。

孤立集落での自衛隊の活動

19日には秩父地域以外から県建設業協会派遣除雪車13台が応援に来て、除雪作業開始。同日、災害協定に基づき新潟県からロータリー除雪車と除雪ドーザ各２台、計４台が応援に来てくれました。孤立集落は2月27日をもって解消しました。

なお、孤立集落への対応についても、群馬・山梨県と概ね同じ時間、同じ状況で埼玉県も進行していました。

感謝　新潟県庁さん・十日町さん。命がけの除雪作業、ありがとうございました!

トンネルを雪が完全に埋め尽くす（秩父 大滑トンネル）

トンネル切り開いた直後。雪の高さに圧倒される。

新潟・群馬県との３県知事による災害応援協定に基づき、新潟県が２月19～27日まで昼夜問わず除雪作業を支援して下さいました。豪雪地域の経験は、秩父の現場職員の目を見張る技術とスピードがあり、新潟県は38.3kmを除雪。

また、新潟県とは別に、新潟県十日町市が21～28日までボランティアで、32.1kmを除雪して下さいました。

今回大雪で除雪作業に来て下さった新潟県と十日町市は、中越地震の時に埼玉県庁から義援金・支援物資のほか職員を派遣した事や、２年前の豪雪時“スコップ隊”と称して埼玉県庁職員166人（他に関係団体30人、県民147人）が、雪かきボランティアの協力をした事に**「いつか恩返ししたかった」**と、おっしゃっていました。（私が新潟県の除雪職員に、除雪の最前線で御礼を申し上げた時「命がけです」と、おっしゃっていました）１晩に90cmの積雪は、新潟でも数年に１度との事。

また埼玉県は26日、国に緊急災害対策派遣隊派遣を要請。27日に除雪作業を開始。同組織は除雪車などと除雪作業員、雪崩監視員ら14人で構成（新潟の業者による）。１週間除雪が行なわれました。

狭山市内では市内建設業13社が20台で、除雪して下さいました。ありがとうございます。

教訓①　災害時に道路を封鎖し、車使用禁止令を出せるか? それが機能するか?

米国では自然災害などが予想される時、市民に外出禁止令など命令で対処しますが、日本はそうなっていません。

県の東松山県土整備事務所は、今回の大雪で関越道が通行止めになった直後に、定峰峠（県道）を閉鎖しました。今後大雪や大地震があった際、どうするか。私から県と秩父市に問題提起・質問しました。

今回の大雪の場合、中央道が通行止めになったのに、秩父の山奥深い雁坂峠（彩甲斐街道）の道を通行止めにしなかった事もあり、車の立ち往生を結果として招きました。通行止めに出来るのは、近くにいる職員の判断です。

大災害時、車は使わないで（警視庁作成）

また、大地震などの際、緊急救助車両を通す為に、道路をいかにして空けるか。普段でも朝・夕方は道路が渋滞していますが、災害の際、どうすれば車の使用を抑制して頂けるか。東日本大震災時、都内では、地震があってから、送迎の車が出て、渋滞が深刻化しました。これで首都圏が震源地だったら、シャレになりません。県議会で繰り返しこのテーマについて質問し、県警・防災担当者と何度となく打ち合わせしています。質問して以降、埼玉県警と警視庁とで、国道の交通規制訓練が行われるようになりました。

災害時は、きれい事は通用しません。「そうは言っても」と言っていたら、命は救えないのです。

災害時、電話は通じず、家族の事が気になって、無理に帰ろうとしてしまいます。災害時、家族の集合場所は決めていらっしゃるでしょうか?　災害伝言ダイヤル（171）を試してみて下さい（毎月1日、15日など）。

教訓②　災害時、家が遠い公務員は帰せない

県の秩父県土整備事務所は、これまで大雨時など年10回くらいは災害対応を経験していました。

今回の大雪では、14日夜、県土事務所には職員13人が残っていました。その後、２泊、缶詰状態に。歩いて来れる県職員を電話で召集。今回最初の１週間、職員の勤務体制は、朝８時半から24時間でした。

しかし、その一方で、災害の第1線では無い、他の秩父の県施設職員があまり機能しませんでした。（地域防災幹という位置付けの人もいたのですが）県地域振興センター・県農林振興センターの課長が家に帰り、職員を帰らせたのは課題を残しました。泊まるよう定めた内部の規定・口頭申し合わせがあったにも関わらずです。

県内の市職員の対応は、東日本大震災でも課題になりました。家に帰ってしまった為、帰宅困難者の対応が出来ず、原発被災者の受け入れが困難でした。

公務員の中には、指示待ちになってしまう人がいます。これを何とかしないと、現場は手一杯で周りを見渡せず、応援を要請する余力も無く、もっと何が出来るかという視点に立てず、適切な対応が出来ません。

2月17日に県庁から連絡要員が来て、これは機能しました。地元建設業者との打ち合わせや、県庁との連絡、外部からの応援の受け入れ（受援）が大変でした。

新潟県庁の除雪車が応援に到着したのは、午前１時半で、翌８時半から作業開始。機動力があり、プロだと感じました。

教訓③ 市職員と市民が「日頃、顔が見える関係」でないと、災害時に困る

今回の大雪は、結果として大災害の実地訓練にもなりました。小・中規模の災害で対応出来なかった事が、大災害で出来るはずがありません。東日本大震災で被災した方が言われていたのは「災害時の対応が良くなければ、平時の対応もいいはずがない」と。

行政の“総力”は、口で言うだけでは向上しません（タテ割りの弊害もあります）。日頃から“市民目線で臨機応変”に業務を行えるか検証・実践の積み重ねが大事だと思います。大雪の翌日(土)、狭山市内も通行が困難な状況だったので、私は狭山市長に、雪かきの為の職員召集の必要性を電話し、市役所職員（職員数935人。消防を除く）は102人で、狭山市駅周辺などの雪かき、市内巡回パトロール、市役所での電話対応を行いました。感謝。

埼玉県 本庄市役所（職員数538人。消防を除く）では、大雪の翌日は82人の非常参集体制、２日目は市長が「雪かきの為、来れる職員は来て」と呼びかけ、職員257人が集まったと、本庄市長から聞きました。

さて、災害時、住民が怖いのは病人・薬などです。今回秩父に伺って一番教訓になったのは、市役所職員の日頃から顔が見える活動と、それがあるからこそ、災害時、職員の必死の活動に呼応し、住民が協力した姿でした。これは、田舎だから出来ると、やれない理由を述べていては、災害時に住民が痛い目にます。

【現場エピソード１】

今回孤立した集落の方に「診療所が薬を、出張所の市職員に頼んで届けてくれた」と聞き、秩父市役所の出張所（大滝支所）で詳しく話を聞きました。

診療所の医師は、秩父の市街地に住んでおり、診療所までの20km、普段でも歩いて５時間かかる道を、大雪時、歩いて診療所に来ました（途中、結果として偶然通りかかった車に乗せてもらえました）。　薬は今回、直接手渡しが出来なかったので、特別に集落ごとに薬を診療所で用意し、自治会長さんが戸別に分けました。

熊谷の病院に通っている人もいたので、市内の病院と病院同士でやり取りし、ヘリで孤立した集落に薬を届けもしました。

【現場エピソード２】

大雪の翌朝。市役所勤務の４人が、市役所には行けないので、支所で勤務（市役所や県庁まで災害時行けそうにない職員はどこで勤務するかあらかじめ決めておき、災害時指示待ちにならずに対応出来るかが問われます）。支所に宿直する体制は、25日まで10日間続きました。

秩父・大滝のループ橋周辺では、車10台22人が立ち往生。朝3時に「避難所を開設して欲しい」と支所に依頼があり、朝5時に県立大滝げんきプラザを避難所として開設。大滝支所から1.5kmの所ですが、雪は腰以上の高さまであり、3人で先頭を代わる代わるにラッセルし、地域の住民が（車が立ち往生して避難して来る人達の為に）おむすび20個など作って来てくれた物を背負って、1時間以上かかって到着。昼食も住民が用意しました。また、大滝地区にコンビニはありませんが「大雪の後、食糧を、セブンイレブンが、いち早く届けてくれた」と言われました。食料はＪＡと災害協定していたので、秩父市や近隣町村にも提供され、コカコーラが飲料水を提供して下さいました。

大滝支所職員が雪に埋まりながら車立ち往生の救助に向かう

阪神淡路大震災で大きく注目されたのは、淡路島　北淡町（ほくだんちょう）の高齢者・障害者など近所に支援が必要な人がどこに住んでいるかの普段からの把握と、親身な対応でした。(高齢者が家のどの部屋で寝ているかも知っていて、救助が早かったと話題になりました）あれから19年経ちましたが、県内市町村で災害時要援護者の個別支援計画は、残念ながら、まだ作成し終わっていない所が63市町村中30あり（狭山市もまだ）、作成されている市町村でも実効性が伴っているとは思えません。「都会だから」と災害は許してくれません。これが機能していけば、防災だけに限らず、高齢化（防犯・核家族化）対策など、あらゆる地域の課題解決の基礎になります。

大雪で孤立集落のある秩父で雪かきして来ました

秩父の雪の量が狭山市内とどれだけ違うのかと思いましたが、正丸トンネルを過ぎると、景色は一変しました。

私と一緒に、秩父で腰まで積もった雪を雪かきした方々は、都内やさいたま市などから来られた、日頃、荒川でゴミ拾いをやられているＮＰＯ団体の方々で「普段、荒川上流の秩父・大滝地区と交流があり、大雪と聞いて応援に来た」との事でした。有り難いと思いましたし、日頃の（市内・市域外との）交流が大事だと改めて思いました。

（秩父での雪かきボランティア参加人数 のべ861人）

教訓④ 災害時、県や、周辺の市が、被災した市とどう関わるか?（大地震時も同様）

災害により大きな被害を受けている市町村が、救助・復旧・復興業務を担わなければなりませんが、そこを、県庁や他の市町村がどうカバー・支援するかが、まだ大きな課題です。

今回の大雪で、県庁の最前線基地となった、秩父県土整備事務所の職員は、秩父地域在住者が４～５割。所長は、大雪後、事務所に６連泊。７日間の睡眠時間は平均２，３時間でした。

県土整備事務所は、市と県の間に入って、うまくいっていない部分の調整もしていました。

しかし、県の災害対応組織の地域支部にあたる秩父県地域振興センターの職員は、市役所に来てはいましたが、県庁との橋渡し役にはなれず、窓口が１本化されませんでした。県から市に、孤立集落の戸別住宅への安否確認の為「戸表を送って」と依頼がありましたが、とても労力が無く、お断りするような感じでした。結果、安否確認で、元から空き家の家が多い集落だったので、空き家なのかどうか分からず、混乱しました。

ここで分かるのは、命を預かる現場の肌感覚と、それ以外の部署の感覚のずれです。これは災害で、いつも課題になります。

私は県議になった直後の議会で、東日本大震災被災地に①県庁職員を最大限派遣するよう質問し、47都道府県で東京都に次いで2番目に多く派遣するようになり、②県職員に災害ボランティアをする事を薦める質問もし、実人数577人、のべ659人が経験しました（この他、新潟へのスコップ隊も）が、まだです。

今回、被災していない他市町村からの応援の受け入れなど、広域対策本部が必要でした（被災した市町村の対応の足並みを揃える為にも）。

教訓⑤ 除雪車を購入する? 県境を越えた更なる連携と、今後のまちづくりのあり方が課題

3月17日、秩父・中津川地区（本人撮影）

大雪から１か月以上経った3月17日、秩父・中津川地区に行ってみましたが、道路は通れるものの、まだ雪が道路以外の山にとても多く残っている事に驚いたと共に、長い距離を除雪する大変さ、財政が厳しい市で除雪の財政負担をどうするか考えさせられました。

今回のような大雪は、今後も無いとは言い切れず、その度に自衛隊派遣とは、いかないと思います。

秩父では、除雪車を購入して欲しいという声を聞きました。

除雪機は、１台３～４千万円するそうです。災害は形を変えて起こり、その度に普段は使わない、利用頻度の低い新たな物の必要性が報道され、それがあったほうが安心だという心理を働かせます。

埼玉で重機が使える人でも、大雪の除雪には慣れていません。大雪が降った直後の除雪は、二次災害の可能性もあり、除雪車がただあればいいという問題では無い気がしました。秩父で職員に聞いたのは、新潟県の除雪の技術の高さ。除雪には土木の災害復旧作業とは別のノウハウが必要です。

秩父市だけで埼玉県の１／６の面積があります。そもそも市街地から車で１時間以上かかる所まで毎回速いスピードで除雪をやるのか。費用はどうするのか。

今回の大雪の除雪費用は、秩父市の負担が１億５千万円以上、県の負担が３億８千万円以上かかっています（現在集計中）。次の大雪時を想定し、県・市独自であらかじめ除雪機を購入するのか？それとも、秩父は市境が山梨県と接しているので、山梨・群馬・新潟県との広域ネットワークで、除雪の取り決めをしておくほうがいいのか？

県の範囲を超えた広域に渡る被害の対応は、国とも調整する必要があると感じています。

少子高齢化の中、税金は限られており、まちづくりの見直しも、市民と市役所が一体となって考える時代になっています。

秩父・飯能・狭山など今後の県西地域は…

今回大雪に見舞われた秩父市の人口（現在６万７千人）は今後20年間、毎年千人ずつ減っていく。

また、狭山市の人口は、今後12年間の間に１万５千人減り、人口13万９千人となる（平成38年）と、市では推計しています。

県西地域の人口減少問題は、ひとつの市だけで考えるのでなく、地域を見渡して、お互いのいい所を伸ばし、課題を解決していかなければと思い、人口政策・鉄道政策などに取り組んでいます。

秩父や東日本大震災被災地へお出かけになりませんか?

秩父札所36カ所は今年、12年に1度の総開帳

あたたかくなって来ましたね。
秩父札所34か所は、12年に1度、うま年の今年、総開帳との事。
訪れてみてはいかがでしょうか？（11月18日まで）
困った時は、お互い様ですよね。
また、東日本大震災被災地を個人的に訪れてみたい方、
現地で震災時からのお話をして下さる方を
紹介させて頂きますので、ご連絡下さい。
震災から3年。被災地はあまり震災当時と変わっていません。
訪れる人も少なくなって来ています。

県議会で質問しました! 大雪と竜巻被災現場に関わって感じた災害対策について

この７ヶ月間に県内で起きた災害の教訓について、私は２月27日に県議会で以下の項目を質問し、それぞれ知事から善処する答弁をもらいました。

①“知事・市町村長 災害対策会議”（仮称）を設立し、定期的に危機意識の共有を
② 災害時要援護者支援計画の全市町村早期策定と、計画を実効性あるものに
③（中規模の災害でも、県・市町村共）災害担当外職員の参集・応援力向上を
④ 県としてSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用を
⑤“首都圏広域災害ボランティアネット”（仮称）設立を（土木など専門職を含む）
・ 埼玉県災害ボランティアの活用を

また私は県議会　危機管理・大規模災害対策特別委員会（本木県議が委員長）で、今後起こり得る災害に備える為、3月14日に質問しました。くわしい内容については恐縮ですが、私のＨＰをご覧頂ければ、幸いです。

県内大雪被害

- 死者：3人（ベランダ屋根崩落、加須市1人。屋根からの落雪、深谷市1人、横瀬町1人）
  重症28人（ほとんどが転倒。カーポートの下敷き3人）、中症145人。
- 家屋半壊1件、家屋一部損壊11件
- 孤立集落：最大時（2月18日9時）1118世帯・農業被害 229億円（うち作物108億円）

【狭山市内被害】

- 住宅・工場屋根倒壊2件、プレハブ倒壊1件
- カーポート損壊11件（市に罹災（りさい）証明の届出があったもののみ。
  雪の少ない関東地区のカーポートは、20cmの積雪を想定した設計になっている）

農業被害支援の為、県として緊急補正予算

上田知事に知事室で、大雪復興策について相談（3月4日）

先日の大雪は、狭山市でも積雪が55cm。市内の農業用ハウス59棟・畜舎２棟が被害を受けるなどしました。

そこで知事室に３度行き、上田知事と話しました。

今回の農業被害の甚大な規模を踏まえ、日頃連携している大島敦衆議院議員（上尾市など）が国会で質問し、これまでにない手厚い支援が講じられるようになりました。

知事からは「損壊した農業用ハウスの撤去費用はほぼ全額助成。農家被害の負担軽減について、国に直接申し入れを行い、１割程度の負担でハウスの再建が出来るようになった」との事（ハウスなどの建て直しに、国が1/2、県が1/5、市が1/5を助成）。

３月11日には、大雪被害対策として104億円の緊急補正予算が県議会に提案されました。

（しかし今回のような大雪がまた降る事に備え、雪国仕様の農業用ハウスにする為には建設費用が15%～20%増しの負担になる悩みも農業者にはあると聞いています）

あなたのご家庭で、食糧・水・電池などの備蓄はお済みですか?

大雪で孤立した秩父市の５つの集落でお話を伺ったところ「普段から食料や燃料を備蓄している」「大雪の予報だったので、木曜日の段階で病院に薬をもらいに行って良かった。金曜日は朝から雪が降り出したので」とのお話を口々にお聞きし、日頃からの備えの精神を感じました。秩父だけでなく、今回の大雪では、都市部のスーパー・コンビニでも、食料品が底をつきました。東日本大震災からこれで２度目の品薄です。もう東日本大震災の時のような、品薄だから余計に買いに走るというパニック状態を２度と見たくないですよね。今回の議会でこの事も質問しました。県では、家庭で備蓄食料を日頃使いながら新しいものを買い足していく事（「ローリング備蓄」）をお薦めしていくとの事です。

ご自身の家の食糧などの備蓄はお済みでしょうか？もう1度点検してみて下さい。

また、上田知事との話の中で「埼玉県は、東日本大震災の義援金募金の件数が全国2位、金額では全国3位。緑の羽根募金では、3年連続全国1位。高校生の献血者数も全国1位」とありました。埼玉県は本当にあたたかい人が多いのですね。とてもうれしいです。まさかの時はまた協力し合いましょう。

阪神淡路大震災の被災地では、道行く人のほとんどが、見知らぬ人に「お宅はどうでしたか？」と声をかけ合っているのを目にし、地域で運営している避難所で寝泊りをしました（真冬の体育館の寒さを想像してみて下さい）。4、5mもの豪雪の（狭山市の姉妹都市）新潟県津南町に行っては、“結（ゆい）の精神”とは何かを体感しました。

こんな素敵な芸術作品が出来ていました
（2／15狭山市内のお花屋さん）

あたたかい街にしたい。何かを期待するのでなく、そう思って、私はこれまで雪が降れば地域の雪かきをして来ました。それに共鳴して下さり、商店街・住宅街の方々、マンションに住む方も、年々、自分の家・店の前だけでなく、周りを雪かきして下さるようになりました。

今回の大雪で通りを雪かきしているのを見て「すごい、みんな雪かきしてる。狭山はいいな」と言っていた方がいました。

（2月8日）1回目の大雪

狭山中央通り（2月15日夜）

なんと150cmの雪だるま
（2／8狭山市）